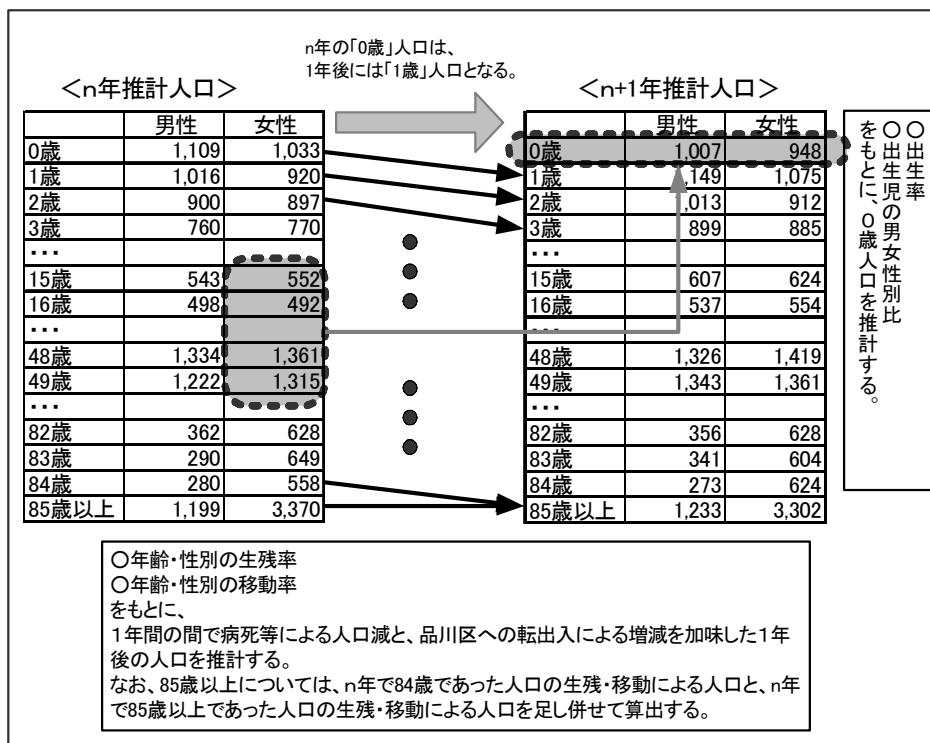


<<人口推計の方法と指標設定について>>

1. 人口推計の方法について

- 将来の自然増減要因（出生、死亡）と将来の社会増減要因（転入、転出）を個別に設定し、各コーホートの将来人口を推計し、積み上げる方法であるコーホート要因法に基づいて推計を行った。
- 具体的には0歳人口以外については、前年度の推計人口に生残率と移動率を掛け合わせて算出し、0歳人口については前年度の15歳～49歳の女性推計人口に出生率を掛け合わせて算出した後、出生児の男女性別比をもとに男女別推計人口を算出している。（図表1）
- 基準人口は、平成27年4月1日現在の住民基本台帳人口（外国人は含まない。）
- 大規模開発は、趨勢人口とは異なる人口流動として取り扱う必要はなし。
- 目標年次は、国の「長期ビジョン」に合わせて、平成72年（2060年）までとした。

図表1 コーホート要因法による推計フロー



資料)三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

2. 必要な指標設定について

- 出生については、近年出生率が高止まりしている傾向を踏まえ、当初は高止まり傾向が続くものと仮定し、推計区間毎に設定値を変更した。
- 死亡については、過去の品川区における実績値を基準として、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計値と同様の推移をするものとして、推計を行った。
- 移動（転入・転出）については、東京都の推計において社会移動数が平成32年以降急速に減少することが見込まれていることを踏まえ、推計区間ごとに設定値を変更し推計を行った。

図表2 推計指標の設定結果

	高位推計	中位推計	低位推計
位置づけ	中位推計ほどには、社会移動が減少せず、増加基調が当面続く設定	当初は近年の社会移動の傾向を維持。その後社会移動は急速に減少すると設定	中位推計よりも社会移動が微減傾向を示す設定
基準人口	平成27年4月1日現在の住民基本台帳人口（外国人は含まない。）		
出生	■出生率 【基準値】 ・平成25年の出生率 ※過年度推計では出生率の設定値が実績よりも過小であったことから、比較的出生率が高止まりしている時期として選定 【将来値】 ・社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」における品川区の将来子ども女性比の変動にあわせて設定。 ・ただし、平成27～32年にかけては実績値がそのまま維持されると仮定し、平成32～36年にかけては、平成37年の設定に向けて線形に変化するものとして設定 ■出生性比 【基準値】 ・平成22年～平成26年の出生性比の平均値 【将来値】 ・将来にわたって一定とする		
死亡	【基準値】 ・平成22年～平成26年の平均生残率 【将来値】 ・社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」における品川区の将来生残率の変動にあわせて設定		
移動	①平成27～32年 平成22～27年平均値で固定 ②平成32～42年 平成10～15年平均値で固定 ③平成42年以降 平成10～15年平均値を東京都の都区部の当該期間社会移動数推計値の比率をもとに、逓減	①平成27～29年 平成22～27年平均値で固定 ②平成29～32年 平成10～15年平均値で固定 ③平成32年以降 平成10～15年平均値を東京都の都区部の当該期間社会移動数推計値の比率をもとに、逓減 （平成32～42年と平成42年以降でそれぞれ一定）	①平成27～32年 平成10～15年平均値で固定 ②平成32年以降 平成10～15年平均値を東京都の都区部の当該期間社会移動数推計値の比率をもとに、逓減 （平成32～42年と平成42年以降でそれぞれ一定）

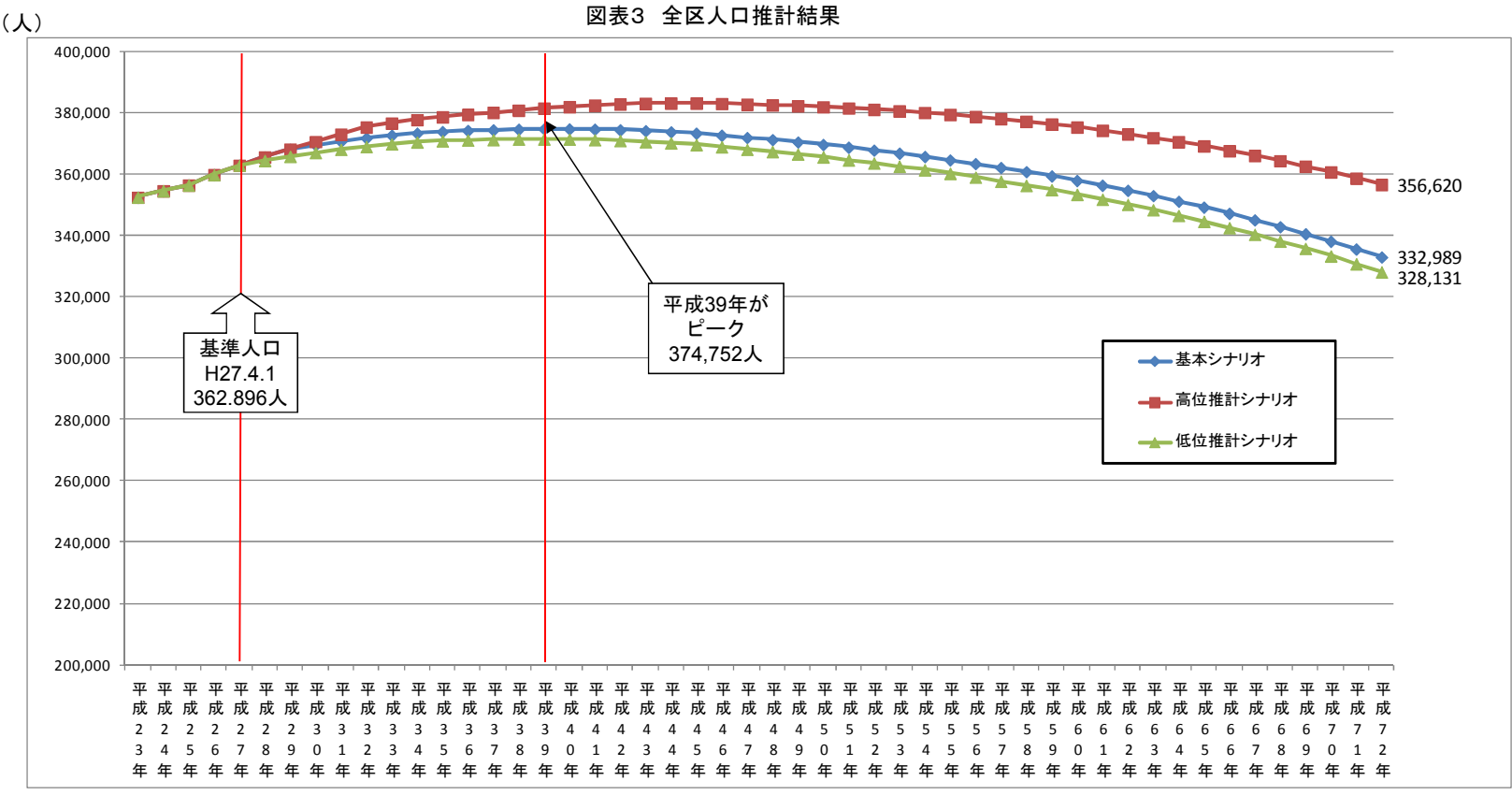
資料)三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

<<人口推計結果について>>

1. 品川区の人口の推計結果

【住民基本台帳（日本人）総人口】

■中位推計（基本推計）では、当初堅調に増加し、平成39年で374,752人とピークを迎えた後、減少傾向を示し、平成72年には332,989人となる。（図表3）



	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年	平成42年	平成43年	平成44年	平成45年	平成46年	平成47年	平成48年	平成49年
基本	362,896	365,565	368,141	369,530	370,725	371,787	372,669	373,354	373,870	374,204	374,394	374,630	374,752	374,743	374,645	374,443	374,156	373,795	373,323	372,685	371,934	371,253	370,486
高位	362,896	365,565	368,141	370,619	373,022	375,330	376,653	377,746	378,691	379,465	380,123	380,847	381,474	381,998	382,468	382,871	383,056	383,169	383,170	383,010	382,736	382,537	382,258
低位	362,896	364,455	365,789	367,012	368,079	369,031	369,828	370,430	370,870	371,131	371,252	371,419	371,472	371,392	371,219	370,944	370,587	370,157	369,618	368,916	368,098	367,347	366,508
	平成50年	平成51年	平成52年	平成53年	平成54年	平成55年	平成56年	平成57年	平成58年	平成59年	平成60年	平成61年	平成62年	平成63年	平成64年	平成65年	平成66年	平成67年	平成68年	平成69年	平成70年	平成71年	平成72年
基本	369,657	368,765	367,820	366,814	365,749	364,620	363,423	362,158	360,812	359,404	357,918	356,360	354,718	352,981	351,149	349,232	347,215	345,088	342,863	340,542	338,119	335,599	332,989
高位	381,925	381,540	381,107	380,624	380,082	379,477	378,798	378,047	377,211	376,304	375,312	374,245	373,108	371,882	370,569	369,168	367,673	366,070	364,373	362,579	360,685	358,696	356,620
低位	365,605	364,639	363,622	362,550	361,426	360,244	359,001	357,704	356,334	354,903	353,392	351,808	350,141	348,380	346,523	344,581	342,538	340,385	338,132	335,781	333,326	330,774	328,131

資料)三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

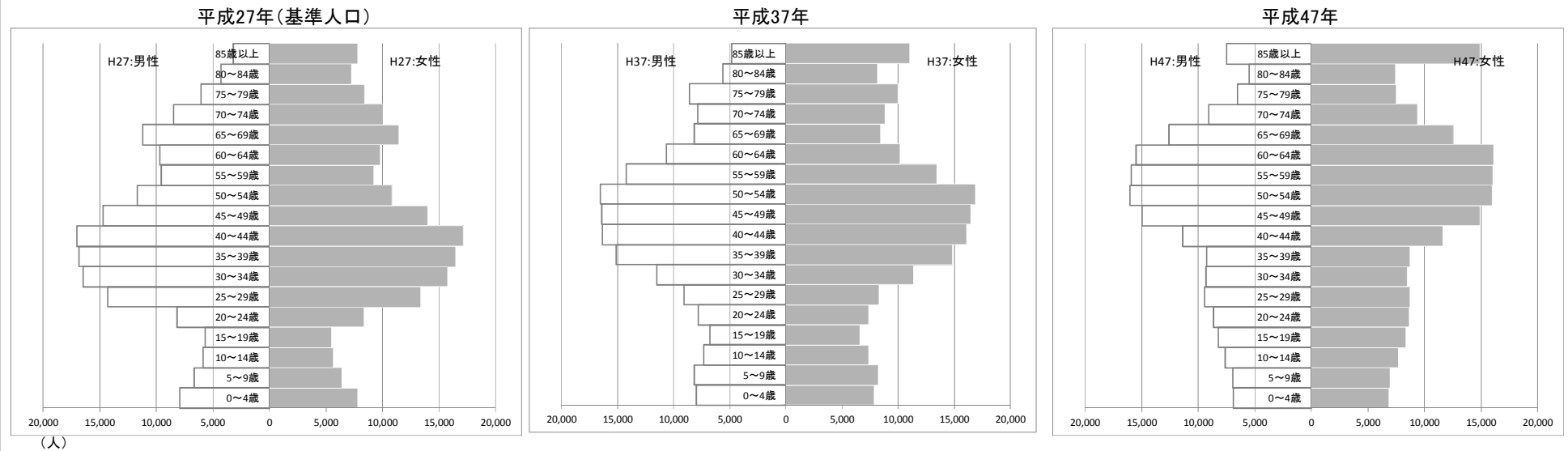
<<人口推計結果について>>

2. 中位推計における性別・年齢階層別推計結果

■中位推計（基本推計）における5歳階級・性別の人口ピラミッドをみると、基準人口では男女ともに25～44歳の年齢層が多いが、その後確実に高齢化が進んでいる。（図表4）

■年齢3階級別にみると、年少人口は平成38年にピークを迎えたのち減少に転じ、生産年齢人口は平成32年にピークを迎えたのち減少に転じ、老年人口は平成67年をピークに減少に転じる。（図表5）

図表4 人口ピラミッド（平成27年、37年、47年）



図表5 年齢3階級別人口の推移

図表5 年齢3階級別人口の推移

(人)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年	平成42年	平成43年	平成44年	平成45年	平成46年	平成47年	平成48年	平成49年
年少人口	40,248	41,158	41,993	42,994	43,852	44,706	45,518	46,133	46,540	46,842	46,949	47,006	46,971	46,723	46,310	45,782	45,346	44,792	44,184	43,551	42,921	42,265	41,640
生産年齢人口	244,502	245,041	246,112	246,042	246,227	246,376	246,182	246,160	246,271	246,222	246,070	245,869	245,586	245,348	244,972	244,251	243,017	242,016	240,296	238,203	236,096	233,817	231,144
老年人口	78,146	79,365	80,036	80,494	80,645	80,705	80,969	81,060	81,060	81,141	81,375	81,755	82,195	82,672	83,364	84,409	85,794	86,987	88,843	90,931	92,917	95,170	97,702
	平成50年	平成51年	平成52年	平成53年	平成54年	平成55年	平成56年	平成57年	平成58年	平成59年	平成60年	平成61年	平成62年	平成63年	平成64年	平成65年	平成66年	平成67年	平成68年	平成69年	平成70年	平成71年	平成72年
年少人口	41,048	40,483	39,955	39,461	38,986	38,521	38,066	37,651	37,156	36,707	36,296	35,936	35,614	35,331	35,091	34,886	34,717	34,579	34,465	34,369	34,289	34,217	34,144
生産年齢人口	228,216	225,121	222,150	219,295	216,335	213,475	210,538	207,605	204,994	202,247	199,300	196,163	192,992	189,847	187,033	184,365	181,891	179,767	177,900	176,121	174,577	173,325	172,233
老年人口	100,393	103,161	105,716	108,058	110,428	112,624	114,819	116,901	118,661	120,450	122,321	124,262	126,112	127,802	129,025	129,982	130,607	130,743	130,498	130,052	129,252	128,057	126,612

資料)三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成